

目標17

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



持続可能な開発アジェンダを成功へと導くためには、政府、民間セクター、市民社会の間のパートナーシップが必要です。人間と地球を中心に据えた原則や価値観、共有されているビジョンと目標に根差すこのような包摂的パートナーシップは、グローバル、地域、国内、地方の各レベルで必要とされています。民間の数兆ドルに上る資金が持つ変革力を動員し、方向を変え、解放し、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に役立てる必要があります。特に開発途上国では、重要部門への海外直接投資を含む長期的な投資が必要とされています。具体的な部門としては、持続可能なエネルギー、インフラと輸送、さらには情報通信技術が挙げられます。公共セクターは明確な方向性を定めなければなりません。投資を誘致し、持続可能な開発をさらに促進できるよう、審査・監視枠組みや規制のほか、このような投資を可能にするインセンティブの構造を改革しなければなりません。最高会計検査機関や立法府による監督機能など、国内の監督メカニズムも強化すべきです。

※出典・引用：国際連合広報局「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」

SDGs に法的拘束力はありません。誰も置き去りにしないことを約束したアジェンダに沿って、すべての国や地域、すべての人々が持続可能な開発目標達成のために、自主的に行動していく目標なのです。

SDGs と ESD 三重県環境学習情報センターの取組

三 三重県環境学習情報センターは開設以来、地球問題、地域の課題をテーマにした講座や体験学習、指導者養成、環境情報の提供など多岐にわたる事業を展開してきました。

しかし、時代や社会の変化とともに環境問題は変化し、取り組むべき課題も多様になってきています。

そこで、私たちがこれから取り組もうとしているのは「SDGs」。2015 年国連で採択された「持続可能な開発目標」です。日本政府は SDGs 対策推進本部を設け、国際社会の中で重要な役割を果たそうと多様な施策を検討、実施しています。企業においても、環境レポートや CSR レポートに 17 の目標が描かれたマークを表記し、SDGs 目標との関連性を示す動きが始まっています。学校教育でも、授業カリキュラムにマークを記し、SDGs 目標と授業のつながりを可視化するなど、少しずつですが、SDGs の取り組みが進み始めています。

SDGs の 17 の目標はそれぞれが大きな課題ですが、当センターは「SDGs」という合言葉によって、世界の課題と私たちが暮らすまちや地域の課題とを結びつけることができるようになったと考えています。

このことは、SDGs は、すべてをゼロから始めることではなく、今ある活動やその成果が、地域の人々や他の団体との連携、また、企業や自治体との連携などによって、今まで以上にやりやすくなり、大きな成果に発展する可能性が高くなったと期待します。

2030 年までの目標である SDGs の目標達成のためには、「ESD（イーエスディー）：持続可能な開発のための教育」のさらなる推進が重要になります。

SDGs の目標の中で「教育」を課題とする目標は「4 質の高い教育をみんなに」で、17 の目標の中の一つとなっています。しかし、ESD は SDGs の他の 16 の目標達成にそれぞれ結びつくものであり、ESD の推進が SDGs のすべての目標達成を支えているともいえます。

当センターも、「環境」「教育」を切り口に、多様なセクター、分野がつながる講座や活動を展開しようと思案中です。

センターとしてできることは何なのか、センターとしてなすべきことは何なのか、みなさんと一緒に考えながら ESD に取り組んでいきます。

※参考文献：仮訳「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」（国連文書 A/70/L.1 を基に外務省で作成）
※出典・引用：国際連合広報局「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」